

角田市学校適正規模検討委員会の主な質疑内容

■第1回検討委員会（R6.3.18）

Q 小学校・中学校の1クラスあたりの人数は？（小田・目黒）

A 公立小学校の全学年で学級人数の上限を40人から35人に引き下げる「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律」（以下、「義務標準法」という。）の改正により、すでに導入されていた小学1年生を除く学年において、令和3年度から5年間かけて段階的に「35人学級」へ移行しています。現在、小学5年生まで「35人学級」へ移行済みであります。

中学生は、法律上は40人学級のままであるが、県の学級編成弾力化事業により中学1年生のみ35人学級となっています。

Q 学校が無くなったことにより地域の伝統的なイベントがなくなる、こども会が解散する、地域の人間関係が希薄になったことに対する見解は？（角田中・武田）

（例、小田地区では、学校と地区民合同の運動会があったが、現在開催されていない。）

A これまで統廃合で学校が無くなったことが、地域のイベントや組織のあり方に少なからぬ影響を及ぼしたものと思われます。しかしながら、子ども会については、学校の統廃合の有り無しに関わらず、保護者の負担や地区内の子どもの数の減少などの理由から解散している状況もあります。

こうしたことも含めて様々な社会環境の変化に対応しながら、地域が、コミュニティとしての機能を維持していくためには、地域間の連携や住民相互の関係を強化する取組を進めることが重要であると考えております。現在、市民と行政がともに進める「協働によるまちづくり」の第2期地区計画の策定中でありますので、その中で地域内連携やコミュニティの醸成を図る方策を検討しております。

なお、教育委員会においては、令和4年度から「地域学校協働活動」を展開し、地域の幅広い地域住民等の参画を得て、学校ボランティアやオープンファクトリー等を通じて地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、令和5年度から「コミュニティ・スクール制度」を導入し、学校と地域住民が力を合わせ、子ども達のより良い環境づくりに取り組んでおり、こうした子供たちの地域とのつながりを通して、地域内連携やコミュニティの醸成を図っているところであります。

Q 今回、ステップ①「情報の共有を図る」、ステップ②「現状を知る」は、情報共有されたと思う。今後は早急にアンケートを行い、ステップ④「第3次行動計画を考える」に注力した方がいいのではないか。（角田中・武田）

A ご発言のとおり、「第3次行動計画を考える」ことに注力してまいりたいと考えております。

■第2回検討委員会（R6.5.30）

Q アンケートに考察を提示すると分かりやすく意味のあるものになる（西根・黒田）

A 考察を教育委員会主導で記載することにより、考えに偏り（バイアス）が生じてしまうため、表面的な記載にとどめております。

Q お子さんの人数のこれからの推計値及び市の財政状況等、かなりボリュームのある情報がないと、この時期の策定というのは我々なかなか精緻にできないのではないかなと思う。（角田中・武田）

A 検討に必要な情報をできるだけ用意してまいります。

Q 基本構想策定時、中学校については1つがいいか2つがいいか、白紙の状態で議論しましょうということが終わっているはずである。（角田・高橋）

A 過去の議事録を確認しましたが、記録には残っておりませんでした。

Q 統廃合の話が無くても、校舎等の経年劣化による財源確保は必要だったはず。長期計画に基づく財源確保の説明を願う。（西根・黒田）

A 本市においては、平成29年3月に角田市公共施設等総合管理計画を策定し、公共施設等の総合的なマネジメントを継続的に推進していくこととしております。また、各施設における具体的な施設の在り方や維持すべき施設の現状を各種委員会等の意見を踏まえ整理し、施設個々の維持管理方針等を定めた「個別施設計画（長寿命化計画）」を策定し長期的、計画的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化を進めることとしております。

全体計画である「角田市公共施設等総合管理計画」における学校施設の維持管理・修繕・更新等の実施方針については、メンテナンスサイクル（※）に基づき「予防保全型」による維持管理・修繕・更新等を実施し、全般的な経費の低減、合理化を図ることとしております。

具体的には、教育委員会においては、「学校施設個別施設計画（長寿命化計画）」を策定して、時点修正をしながら、安全面を最優先しながら効率化を図り、維持管理・修繕・更新を進めております。

※メンテナンスサイクル：施設の長寿命化を図り利用者の安全・安心を確保するために、点検→診断→措置→記録→（次の点検）といった業務を循環させる仕組みのことです。

Q 学校の改修や場所を決定するには、教育行政のみならず一般行政においても関わり合いを持ちながら進めていかなければならない。一般行政の部署（まち推・都市整備・建築住宅等）も入るべき。（角田中・武田）

A 教育行政だけでは賄いきれない内容もありますので、今後の検討委員会では、必要に応じて一般行政の部署の職員も入り、一般行政に関わる点について、回答をお願いしたいと考えております。

■第3回検討委員会（R6.6.27）

Q 学力向上を教育大綱の基本方針に掲げても良いのではないか。（小田・目黒）

A 基本目標（1）に「夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、未来を創造する力を育成します」とありますが、この未来を創造する力の育成という理念の中に「学力向上」が含まれているという認識であります。

Q アンケート集計結果すべて検討する材料になると感じているが、統合を経験した方のデータは特に検討材料となる。「そう思わない」の少数意見について、どうしてそう感じたのか切り込んだ意見があればよい検討材料となるのではないか。（枝野・佐藤）

A 今回のアンケートにおいて、統廃合の「そう思わない」方の少数意見を抽出することは可能です。自由意見の中で、適正規模・適正配置を進めることに反対のご意見27件のうち、統合された地区の意見が下記のとおり5件ありました。

①角田中学校は一学年の人数が多過ぎて、先生が目が生徒に行き届いていない。イジメもある。少人数の学校が良かった生徒もいるはず。小学校を3校にするのは反対。やっとな、金津小学校に慣れて来たのに、また、統合？統合しなくて良い。（枝野地区）

②統合経験がありますが、統合するならば校舎建物の安全性災害時に土地が低いところは学校向かないそういった点も考えるべきです。（西根地区）

③人数を確保する面で統合は大事だとは思いますが、ひとつにまとめる事に関しては反対の面が大きいです。

角田市自体子供を育てやすい環境作りの推進をするならば、もう少し子育て世代が住みやすくなるように考えて欲しいです。

統合して距離が遠ければバスが出ると言っても、決められた時間決められた本数しか出ない為遊びたい子供たちの自由も無い。

各地区にあるからこそその便利さも理解して欲しいです。（藤尾地区）

④ある程度適正規模による統合がすすみましたが、これ以上統合すると地区から学校が消えてしまうので、ある程度地区に学校を残してあげて子供の世代になったときに子供たちがどちらが良いのか選択させてあげたほうが良い、親の世代で学校が全消えてしまうのは子供の世代に考える機会をなくしてしまうと思う。（藤尾地区）

⑤すべてを均一にするのではなく、規模や特色による違いを作るべき。大規模も小規模も長所と短所があり、どちらかにする必要はないと思う。（小田地区）

Q 金津小学校登校時のスクールバスの1台2コース回ることについて、時間やコースの見直しをすべき。

A 以前お話のあったお子様の件については、既に見直しを行っています。今後も、運行体制の大幅な見直しは難しいですが、できるだけ調整を図ってまいります。

Q 小学校では1学年1クラスの維持ができない場合、統合するようになるようだが、中学校の説明では、2校合わせて現状より少なくなるからとの説明だった。北角田中学校

はそんなに減らないことから、急いで統合しなくても良いのではないか。(藤尾・今野)

A 第3次行動計画構想に係る論点整理の中で、3つ目のテーマとして「北角田中学校と角田中学校の統合」のタイミングは、令和6年度を基準年とした場合、令和12年度以降に、角田中学校と北角田中学校を合計した生徒数が、基準年の角田中学校1校の生徒数より下回る見込みとなる事実があるという話をいたしました。

具体的には、令和6年度の角田中学校の生徒数は484人ですが、令和12年度には角田中学校と北角田中学校を合計しても464人と下回る見込みであるということであります。

学校毎の生徒数の減少幅は、北角田中学校は令和6年度179人に対し、令和12年度は139人と40人減【約22%減】となります。一方、角田中学校は令和6年度484人に対し、令和12年度は325人と159人減【約33%減】となります。

以上のことを含め、統廃合の必要性については、以下の点を考慮すべきであると捉えております。

北角田中学校は角田中学校よりも減少率は少ないですが、現在より学校規模が縮小することは避けられない状況であり、今後、今より学校規模が縮小することを考慮しなければならぬということがあります。

また、基本構想において、北角田中学校を(仮称)北角田小学校化する方向性が示されておりますが、計画どおり小学校としての利活用する場合、中学校とは仕様が異なること、場合によっては(仮称)北角田小学校は別の場所になることもあり得ることを考えると、当分の間、屋内運動場を改修することが難しい状況であるということもあります。

さらに、角田中学校の老朽化解消が喫緊の課題であり、令和2年度の劣化状況評価等から、基本構想及び長寿命化計画において建替える方向性が示され、その整備には多額の事業費を要し、財源確保には、~~唯一~~学校統廃合の実施が補助要件となる「公立学校施設費国庫負担金(学校統合)」【補助率：1/2】を頼らざるを得ない事情もあります。

一例ですが、もし、角田中学校が建替えとなれば、新しい学校では、全ての設備(環境)の整い、素晴らしい環境で学校生活を過ごすことができます。

このようなことから、統合する(統合しない)場合のメリット、デメリットを比較しながら、統廃合の検討を行う必要があると思われまます。

子どもの将来ことを考えて、どのような在り方がいいのかご検討頂きたいと思っております。

Q スクールバスで遠いところから学校へ通うのは大変ではないか。(桜・根元)

A 文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」によると、通学時間については「概ね1時間以内」を一応の目安とされており、本市ではスクールバス利用児童生徒は全てその範囲内となっております。今後も引き続き、年度替りの調整を図ってまいります。

(最長の通学時間)

- ・中学校 : 角田中 35分、北角田中 49分
- ・小学校 : 角田小 31分、金津小 18分(帰り 33分)、桜小 45分、北郷小 23分

Q アンケート調査結果に考察を入れるよう意見していたが、数字のみの集計報告になっていた。(西根・黒田) <第2回にもあり>

A 第2回検討委員会において、アンケートに考察を提示すると分かりやすく意味のあるものになるというご意見を頂いておりましたが、考察を教育委員会主導で記載することにより、考えに偏り(バイアス)が生じてしまうため、表面的な記載にとどめたということでもありますのでご理解願います。

Q 公共・公用施設の修繕・建設計画はあるのか。(西根・黒田) <第2回にもあり>

A 第2回検討委員会において、統廃合の話が無くても、校舎等の経年劣化による財源確保は必要であり、公共・公用施設の修繕・建設計画に基づく対応が必要であるというご意見を頂いておりました。

本市においては、平成29年3月に角田市公共施設等総合管理計画を策定し、公共施設等の総合的なマネジメントを継続的に推進していくこととしております。また、各施設における具体的な施設の在り方や維持すべき施設の現状を各種委員会等の意見を踏まえ整理し、施設個々の維持管理方針等を定めた「個別施設計画(長寿命化計画)」を策定し長期的、計画的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化を進めることとしております。

全体計画である「角田市公共施設等総合管理計画」における学校施設の維持管理・修繕・更新等の実施方針については、メンテナンスサイクル(※)に基づき「予防保全型」による維持管理・修繕・更新等を実施し、全般的な経費の低減、合理化を図ることとしております。

具体的には、教育委員会においては、「学校施設個別施設計画(長寿命化計画)」を策定して、時点修正をしながら、安全面を最優先しながら効率化を図り、維持管理・修繕・更新を進めております。

※メンテナンスサイクル:施設の長寿命化を図り利用者の安全・安心を確保するために、点検→診断→措置→記録→(次の点検)といった業務を循環させる仕組みのことです。

Q 地区、子ども、PTAのあり方を含めて学校の統廃合を考えるべき。(北郷小・岩間)

A 学校の適正規模等の検討は、様々な要素が絡む困難な問題ですが、あくまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものと捉えております。

その上で、学校が持つコミュニティや防災など多様な機能にも留意し、地域の方々の十分な理解と協力が得られるよう、「地域とともにある学校づくり」の視点による丁寧な議論をしていければと考えております。

Q 学区や地区の見直しを含めて適正規模の学校を配置していくという認識に立たないと、自分の地域の学校が無くなるという意識になってしまうのではないか。(角田中・武田)

A 前回の検討委員会で委員長が、学校の統合とは、学校の学区の見直しを行い、その見直された学区の中に統合校を設置することであるという話をされました。

本市のこれまでの統廃合では、廃止となる学校の学区をそのまま、統合先の学校の学区

に合わせており、吸収されたと捉えられがちですが、委員長発言のとおり、学区の見直し後に、適正規模の学校を配置していくという認識に立つことが必要と思われま

Q 12月までに答申を出さなければならないことから、論点を絞って議論を進める必要があるのではないか。(角田中・武田)

A これまでの進捗状況につきましては、本年3月18日開催の第1回検討委員会では、検討委員会設置の経緯や、児童生徒数の推移、学校施設の老朽化などについて、現状と課題を共有いたしました。

5月30日開催の第2回検討委員会では、保護者アンケートの途中経過の報告、第3次行動計画構想として示されている「角田小学校と横倉小学校の統合」、「桜小学校と北郷小学校の統合」そして「角田中学校と北角田中学校の統合」についての議論のポイントを事務局から説明しました。

6月27日開催の第3回検討委員会では、保護者アンケートの結果報告をさせていただき、検討材料がある程度、揃ったところで、第3次行動計画構想の見直しについての意見を頂いたところであります。

今後は、検討委員会の意見を尊重しながら、さらに論点を絞って議論を深めてまいりたいと考えております。